園だより

わくわく・ドキン！

2・5・1 No 2
池内幼稚園

「昨日よりも今日！」の気持ちで！

先月は、新型コロナウイルスに関わって緊急事態宣言が発表され、予定していた家庭訪問、保育参観、PTA総会等の主な行事を中止させていただきました。

今後も感染拡大が懸念される中、府や市の方針にしたがって引き続き5月いっぱいまで「自主登園」とさせていただきます。

なお、今年度は、下記に重点を置いて保育を進めて参ります。

1「幼児期の終わりまでに育って欲しい１０の力」を見据えて
- 子どもの興味や関心に基づいた主体的な活動を大切にする。
- 子どもの遊びが広がるような環境づくりや支援を行う。
- 「設定保育」と「自由遊び」のバランスのとれた保育を行う。

2 安心安全の意識を高め、全職員で子どもを見守る！
- 危険を予知して事故や怪我から子どもを守る。
- 日々の子どもの状況を全職員で共有する。
- 怪我や病気への対応を速やかに行う。
- 新型コロナウイルスへの感染予防対策を行う。

3 保育の「見える化」を進める！
- 保育の実践記録（ドキュメンテーション）を通して、子どもの育ちを捉え、保育の質の向上に活かす。
- 便りやＨＰで、日々の保育の様子を積極的に発信する。

4 より良い環境づくりを進める！
- 保育室の模様替え（壁面・天井・ロッカー）
- 園庭の整備（土山・満３用の砂場・砂場付近に水道設置）
- 教材、教具の整備や有効な活用

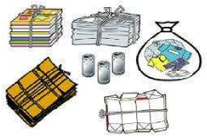
5 保育園・幼稚園・小学校との連携を図る。
- 連携校と年間を通して交流活動を行う（年長）
  ○池内小学校　○中筋小学校
- 池内小学校と年間を通じて連携を図る。
  運動場の利用（遊び・草花や虫の観察等）
  相互の保育や授業参観を通して、交流を深める。
- 各種研究会への参加を通して、保育の質の改善を図る。

6 保護者アンケートの活用
- アンケート（行事・通年）の結果を公表し、保育の充実・改善に努める。

7 教育相談について
- 相談窓口（主任）を設けて、保護者の皆様の声に耳を傾け、何事も気軽に相談できる体制をつくる。

資源回収のお願い！

本園では保育の充実を図るための資金集めとして「資源回収」を行っています。収益金は、子ども達の遊び道具の購入や保育環境の整備等に活用させていただきます。今年度もPTA会員や地域の皆様に御協力いただければ大変ありがたく思います。どうかよろしくお願いします。下記の点にご留意いただきご協力ください。



＜回収物＞
○新聞紙　○雑誌　○段ボール　○牛乳パック
○アルミ缶（中をよくすすいで、つぶさないでお出し下さい）

＜回収場所＞
○園舎の「つくし組下の車庫」に入れて下さい。園で分別してコンテナに入れますので直接コンテナに入れないでください。
○休日で車庫が閉まっている場合は、シャッター前に置いてください。

園医先生のお知らせ！

○荒木クリニック　荒木義正　先生　○小瀬木歯科医院　小瀬木良和　先生

今年は、新型コロナウイルスの感染予防のために、例年５月に行っている集団検診は時期をみて２学期以降に延期したいと考えています。

心ときめく わくわくコーナー

ピンチはチャンス！

☆最近よく聞かれます。新型コロナウイルスは、人類にとって大きな脅威で、正に「天ピンチ」ですが、過去にもスペイン風邪やSARS等の新型感染症が発生する度に、今回も必ず打ち勝ってきました。このような感染症が発生する度に、人類は英知を結集して乗り越えてきました。今回の中で、直接会えなくてもSNSを活用した励ましの言葉がクローズアップされ、合コンや飲食店では食事券やテレワークが励まされたり、企業ではテレワークを導入したり、飲食店では食事券やテレワークが励まされたり、企業ではテレワークを導入したり、合コンや飲食店では食事券やテレワークが励まされたり、企業ではテレワークを導入したり、直接会えなくてもSNSを活用した励ましの言葉がクローズアップされ、今回の中で、正に「天ピンチ」ですが、過去にもスペイン風邪やSARS等の新型感染症が発生する度に、人類は英知を結集して乗り越えてきました。このような感染症が発生する度に、人類は英知を結集して乗り越えてきました。

☆新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で、行動パターンを変えていくことが今求められています。

大型連休が始まっています。３密を避ける為に、行動制限を強いられることが多く、親子共にストレスが溜まることが心配です。感染防止のために、物理的に安全な距離を保つと共に、心理的な距離も大切だと思います。長い時間、相手と密閉された空間で密接な状態にいると、相手の欠点が目につき、互いに気に入らない言ってしまうこともあります。親子関係でも同様です。先日のニュースで、自転車に乗ったり、ジョギングをしたりする取組が紹介されていました。互いに気遣いながらも、近づきすぎない適当な距離をとることを心がけていきたいと思います。

☆新型コロナウイルスの感染経路が不明なケースが増えていますが、罹患者に対する電話やSNSを通じたまた、